2-9 学生生活への配慮

A群・奨学金その他学生への経済的支援を図るための措置の有効性、適切性

ティーチングアシスタント制度、リサーチアシスタント制度は未整備であるが、ともに重要な検討課題と考えている。

法科大学院独自の奨学金制度として以下を実施している。好評であり、改善点はない。

青山学院独自の奨学金制度である万代奨学金の特例として、法科大学院生については、①年額1,200,000円以内を無利子貸与、②希望者全員に貸与、③返還期間は修了後20年以内、とする制度を設けている。

C群・学生に対し、研究プロジェクトへの参加を促すための配慮の適切性

新潟大学・九州大学・本学の3大学のロースクールで構成する共同研究プログラムへの学生参加を呼びかけている。

C群・学生に対し、各種論文集及びその他の公的刊行物への執筆を促すための方途の適切性

学生のLAW REVIEW（未刊）への編集参加及び寄稿を鋭意検討中である。

A群・学生の進路選択に関わる指導の適切性

オフィスアワーを設け各教員が個別に学習、進路相談等に応じている。
また、教務主任等が学年末に成績低迷者に対する面接指導を行っている。
青山法曹会所属の若手弁護士（7名）が週1回相談室を開設し、法曹志望者特有の進路相談等に応じている。